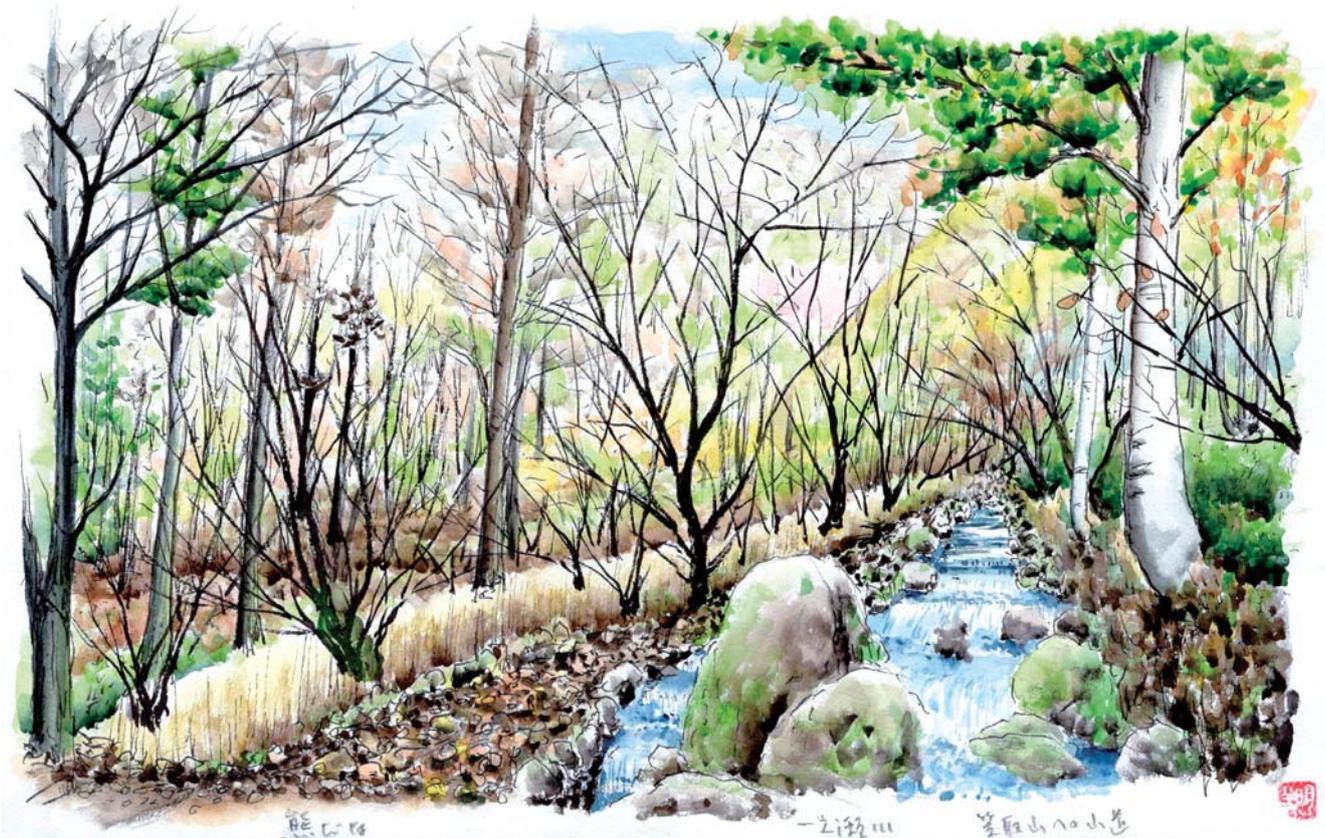


財団だより

第149号

2016.12

多摩川



■ 多摩川源流 一之瀬川 ■

画と文
 工博 野尻明美
 日野市在住

多摩川の最初の1滴である水干の祠から染み出した水は笠取山のダケカンバやクヌギ・コナラあるいはブナの落ち葉にしみ込んだ水を集めながら徐々に水量を増してくる。

奥多摩の冬は早い。

僅かに樺の木々に薄緑の葉っぱを残しているほかはすっかり冬支度。

よく見ると、ぼつりと枯れ枝をこずえに集める巨大で真っ黒な巣が所々に見えてくる。すでに冬眠したのか森のくまさんの寝床「クマダナ」

そよと吹く冷たい風とさわさわと流れる水の音の他に何も無い静寂の世界。心が洗われる一時。

ハイキングのだいご味であり、そんな静寂をスケッチに残してみた。

Contents 目次

巻頭言	2
多摩川散歩	3
特別寄稿	4
歴史・多摩川	6
私と多摩川	7
インフォメ・多摩川	8
財団からのお知らせ	11

巻頭言

多摩川の流域に生きる



東京農工大学名誉教授
第8回とうきゅう環境財団
社会貢献学術賞受賞

小倉 紀雄

私は1969年に調布市の多摩川住宅に移住しました。周辺には公園も多く、すぐ近くには多摩川が流れている自然に恵まれたところでした。多摩川の土手でつくしや野草を採り、楽しみました。また、自転車で多摩川50景に選ばれている狛江の五本松や多摩川の万葉歌碑をしばしば訪れました。1974年8月31日から9月1日にかけて台風16号の接近に伴い激しい雨が降り続け、狛江市の多摩川堤防が決壊し、19戸の民家が流出する大きな災害が起きました。私が住んでいた6階の部屋から、多摩川の土手越しに褐色の水が勢いよく流れている様子が見え、とても心配したことを覚えています。

1974年に、前年に新設された東京農工大学農学部環境保護学科に赴任しました。ここは多摩川流域にあり、多摩川やその支流をフィールドとしてさまざまな調査研究を学生の皆さんと共に行うことができました。

1975年から南浅川で調査を行うようになりました。南浅川は八王子市小仏峠付近に主な源流をもち、八王子市内を流れ北浅川との合流点まで約14kmの小さな川です。当時、下水道は十分に整備されておらず、途中で大量の排水が流れ込み、下流で水質は著しく悪化していました。また1日の時間により水質が大きく変動し、河川の水質をどのように定量的に表すことができるかを検討しました。その結果、中流と下流およびその間に流入する主な排水を3時間ごとに24時間連続して観測することにしました。このような観測を行うことにより、河川の物質収支や物質循環を明らかにする方法を確立することができました。1974年から野川で、また1975年からその水源の一つである真姿の池湧水で調査を行うようになりました。野川は国分寺市、小金井市など人口の集中した市街地の中を流れているので水質の汚れは南浅川に比べ数倍大きい状況でした。一方、真姿の池湧水は環境省の名水百

選や東京の名湧水57選に選ばれているとても素晴らしいところです。散策する人や湧き水を汲んでいる人も数多くみられます。



真姿の池

真姿の池湧水は研究室から近く、観測しやすいので定例観測として1975年から毎月1回調査を行いました。また卒業研究でより詳細な研究も行われました。ここでの調査は私の退職する2002年まで継続されました。水温は四季を通してほぼ一定の16でしたが、現在は約1上昇し17になっています。都市化の影響は地下水や湧水にもみられると考えられます。水質の中で、硝酸イオン濃度は湧水の源である雨水の濃度に比べ10倍ほど高く30mg/L程度になりました。硝酸イオンの起源は土壤に浸透していた生活雑排水中の窒素化合物であることがわかりました。しかし下水道の普及により、その濃度は徐々に減少しています。退職した後も毎月1回、真姿の池湧水を調査することが習慣になりました。調査は水温と電気伝導度の簡単な項目の測定だけですが、周辺の景観は少しずつ変化している様子わかりました。2016年9月には水量はとて多く、きれいな水が湧きだしていました。8月、9月の降水量が多かったためです。観測が終わると必ず近くのうどんカフェの店により、休憩しています。マスターの仁田さんは気さくな方で地元の活動にも加わっているので、そこにはいろいろな人たちが集まり、情報交換をすることができました。1979年に浅川に近い日野市平山に転居しました。いま、その流域で生きていることに喜びを感じています。浅川や野川の水質は良好になりましたが、水量の不足が懸念されます。これからも多摩川流域の環境に関わり、くらししていきたいと思います。

多摩川散歩

■ 多摩川源流大学から ■



多摩川源流大学事務局
NPO法人多摩源流こすげ事務局
東京農業大学非常勤講師

石坂 真悟

小菅村の宝をみんなで学ぶ！

源流大学オープンカレッジ開催報告

今年初めて小菅村の人や資源を学ぶ講座として「オープンカレッジ」を企画し開講しました。

私が移住してから10年、源流研究所ができて15年、源流にこだわった村づくりを行ってきて数十年。この人口1000人にも満たない、山にかこまれた小さな山村では多くの取組みを実施してきました。

そして、地方創生の時代になり、もう一度この小菅村の取組みを再確認するとともに、近年増えてきている移住者の皆様と「小菅村の宝」を再確認する目的と、11月4～6日で開催する「こすげ・むらびとフォーラム」の最終日に行われる「小菅村の10年後。こうなったらいいな、をみんなで考える」の機運を高めるために今年初めて企画しました。ここにその企画の一部をご紹介します。

東京農業大学 宮林教授による「多摩川源流研究所から始まった、源流にこだわった地域づくり」をテーマに、なぜ源流や水源の森を守る必要があるのか、そしてその取組として源流研究所や源流大学、NPOが設立した経緯を講演頂きました。



星空観望会と村民星空解説員の育成

11月3日(木)に、株式会社ビクセンさんとの協働で「星空観望会」を開催しました。当日は、9月後半より実施している「村民星空解説員養成講座」の



受講生の他、多くの村民がご参加頂き、雲一つない満天の星空となった小菅の夜空を楽しみました。

こすげ・むらびとフォーラム
(KOSUGE OPEN VILLAGE)

11月4～6日にかけて、30名以上の村外の方を招き様々な村内プログラムを体験し、6日に村民と共に「10年後の小菅村、こうなったらいいな」を参加者全員で考えました。

その他の講座(テーマと講師のご紹介)

- ・クラウドソーシングで稼ぐ
地域おこし協力隊 森弘行
- ・小菅村にビール工場ができる！
Far Yeast Brewing(株)山田司朗
- ・YOUは何しに小菅村？(株)日本旅行
- ・リコロづくり体験 中央大学 渡辺ゼミ他
- ・ジビエ試食会 源流大学 鈴木一聡
- ・英会話教室 地域おこし協力隊 寺田寛



リコロづくり体験

今後のイベント紹介【NPO法人多摩源流こすげ】

・アニマルウォッチング

12月17日(土) 11:30～21:30

昼間に動いているサルを見つけに本格的な調査道具を使って村内を探し回り、夕方から夜にかけてムササビを見つけたり、ナイトサファリに出かけて夜に動き回る動物を探します。



・猟師と一緒に山歩き 1月28・29日(土・日)

毎年キャンセル待ちが出るほどの人気企画。猟師の目で山を歩き、シカの捌き方を実践で学びます。NPO法人多摩源流こすげ主催のイベントや体験内容はHPよりご覧ください。またご不明な点などは電話でお問合せください。0428-87-7055

【小菅の湯&道の駅イベント】

12月3日 新そば祭り

12月17日 第2回みんなで忘年会

12月18日 第2回ハイハイレース

12月25日 クリスマスじゃないよ大餅つき大会

※ 詳細については「道の駅こすげ」「小菅の湯」のHPをご覧ください。

特別寄稿

日本陸水学会のご紹介



日本陸水学会
会長 山室 真澄

日本陸水学会（The Japanese Society of Limnology）は1931年に設立した、水環境関係の学会としては日本で最も歴史の長い学会です。

陸水とは湖沼、河川、ダム湖、河口域、地下水、湿地、雪氷などの水圏、またはその水を表わします。陸水学会は陸水で生じる諸現象の仕組みを解明するとともに、水の利用や管理、水域汚染の制御、水界生態系の保全など緊急を要する応用陸水学的な課題にも取り組んで来ました。「水の世紀」とも言われる21世紀には陸水学に関わる人がますます増え、さらに広範な関連分野に応用されてゆくことが期待されます。

陸水学の理論のベースは地球物理学、地球化学、生物学、地理学、環境科学などで、これらを研究する大学教員やその学生、研究所研究員などが会員となっています。理学はある意味、言語の障壁が小さいことから、外国籍の会員も在籍しています。応用面では自治体や企業の職員、NPO法人職員が会員として活動されています。日本の陸水環境関係の学会には陸水学会以外にも水環境学会、応用生態工学会などがありますが、これらの学会と異なり、小中学校や高校の教員や



2015年函館大会でのベントス同定会の様子

博物館関係者の会員が多いことも陸水学会の特徴です。

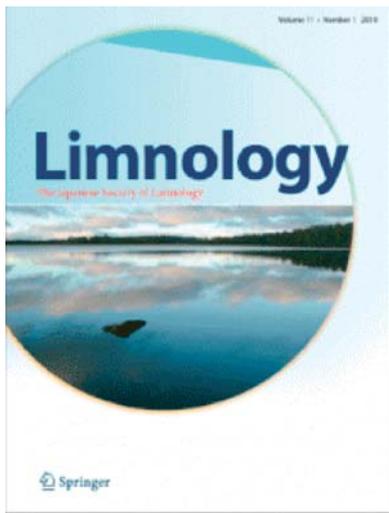
主な活動として、毎年秋に大会を開催します。陸水は海と違い、それぞれの地域の地形や地質によって全く異なる様相を見せることは、例えば高山の溪流と平野部の葦原などを思い浮かべて頂ければ容易に理解できると思います。このように陸水は地域による差異が大きいため、大会は年ごとに異なる県で開催され、地域性豊かな陸水研究の醍醐味を楽しんでいます。今年2016年度大会は沖縄県那覇市で、また去年は北海道函館市で開催されました。大会実行委員会の有志で巡検が企画されることも多く、好評を博しています。



2016年沖縄大会でのベントス同定会の様子

会員だけでなく一般の方やお子様も対象に、陸水ベントス同定会も大会企画として開催しています。陸水ベントスとは、小学校の総合学習などで水質の指標として使われている貝や虫などのことで、ベントスの名前調べをきっかけに身近な水環境に関心を持っていただければとの狙いです。

陸水学会では会誌として和文誌と英文誌の2種類を刊行しています。和文誌である「陸水学雑誌」は1931年の創刊以来継続して発行されてきた、陸水学に関する総合雑誌です。論文はいずれも査読を経て掲載されます。陸水に関する基礎的研究（物理学・化学・生物学・地学・地理学等）を主軸としながらも、水利用、水質保全、環境教育などの応用的研究にも広く発表の場を提供しています。



英文誌「Limnology」の発行に伴い、2000年の第61巻からは新たに和文誌としてリニューアルし、年3号（4、8、12月）発行しています。発行から1年後はインターネットの下記サイトで、無料で閲覧できます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/rikusui/-char/ja>

英文誌「Limnology」は2000年より年3号（1,4,8月）発行しています。論文はいずれも査読を経て掲載され、海外でも高い評価を受けています。2005年のVol.6からはImpact Factorの算出対象となり、陸水学関連の国際誌17誌中7位にランキングされる1.091を獲得しました。

陸水学会では会員の総合力を結集し、専門用語の解説書である「陸水の事典」（講談社）教科書として「川と湖を見る・知る・探る：陸水学入門」（地人書館）を刊行しています。また、先に陸水は地域による差異が大きいと述べましたが、このために日本陸水学会では地区ごとに支部が形成され、それぞれの支部で独立して基礎・応用研究と普及が図られています。



例えば陸水学会東海支部では、支部会員ではあるが陸水学会会員ではない方が結構おられます。身近な環境を守り育てる熱意に支えられたこの支部では、「身近な水の環境科学 実習・測定編」という、まさに理論と応用、さらに実践を備えた本を、大手出版社である朝倉書店から出版しています。身近な陸水に関心があるけれど大会に参加するのは敷居が高いという方は、まずは支部会に参加されてはいかがでしょうか。以下は陸水学会と各支部会のホームページのアドレスです。みなさまのご参加をお待ち申し上げます。

日本陸水学会：<http://www.jslim.jp/>

近畿支部会：<http://limnology-wjpn.sakura.ne.jp/>

東海支部会：<http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/>

甲信越支部会：[http://science.shinshu-u.ac.jp/~](http://science.shinshu-u.ac.jp/~koushinetsu/indexkoushinetsu.html)

[koushinetsu/indexkoushinetsu.html](http://science.shinshu-u.ac.jp/~koushinetsu/indexkoushinetsu.html)

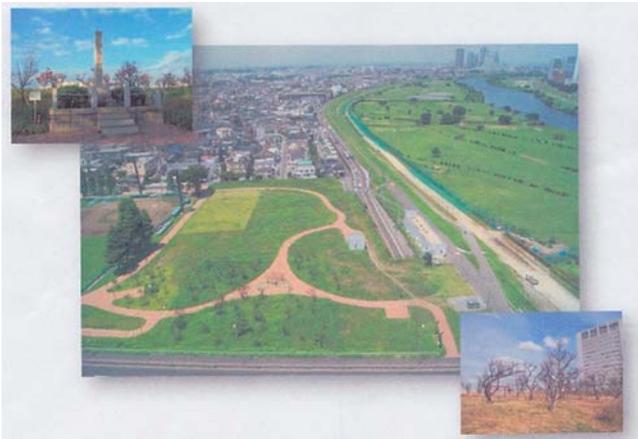
歴史／多摩川 小向梅屋敷



NPO 法人多摩川エコミュージアム
監事 長島 保
(地域史研究家)

多摩川沿いにある川崎市幸区の御幸公園が、注目されだした。国のスーパー堤防の整備も一段落して、点在していた老梅も移植され、広い敷地には明治天皇ゆかりの史跡も残された。

だが、なにかもの足りない。ところがこのほど、地元幸区役所が、来る2024年の市制百年を旨として、「御幸公園梅香（うめかおる）事業」と名乗る推進計画を打ち上げた。下図は、その文書の表紙を彩った写真だ。



整備を進める多摩川沿いの御幸公園
[幸区区役所『御幸公園梅香事業推進計画案』から]

実は、多摩川沿いのこの場所、江戸の昔から梅の里といわれてきた。農家の庭先や屋敷畑に植えられ果実をとった。それを梅干や梅酒に用いてきたのだ。

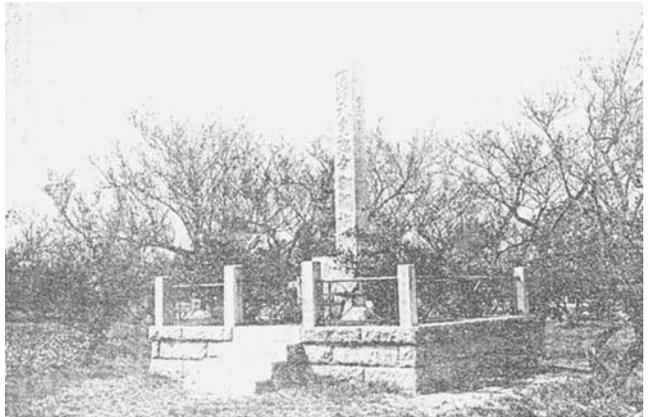
ところが明治13年（1880年）ごろ、新聞社主の成島柳北が「朝夜新聞」に数回にわたって、「小向村探梅記」を連載した。そのとき成島ら一向は、新橋から汽車で川崎駅へと出てから、人力車を連ねて多摩川の堤上を現地に向かったという。梅林の「中央ニイタレバ、四顧尽ク梅ナリ」と、その見事さを紙上で喧伝した。

この成島のすすめで、ここ小向梅林は突如有名となり、季節には多くの観梅者で賑わった。



小向村の梅屋敷（明治初期）『川崎市史・近代3』

さて、この小向梅林の賑わいが、「梅好きの明治天皇のお耳に」入った。なんとわずか三年後の明治17年3月19日、「明治大帝臨幸御観梅」となったのだ。梅林臨幸の内示を受けた小向村役場は仰天した。川崎町から村への通行道路はもちろん、梅林一円の警備、玉座の設営など、準備万端を指示する区内省からの指示が相次いだ。通行時の警備には、神奈川県令直属の警察隊が動員された。



御幸梅林への明治天皇臨幸御観梅跡碑
[昭和14年刊『川崎市史・通史編』]

ところで、上の観梅記念碑は後年に建てられたものだ。現存せず、建設年代などは詳らかでない。小向梅林が御幸（みゆき）梅林と呼ばれるようになるのは、明治22年（1889年）以降のこと。臨幸を記念して、近隣六ヶ村を合わせ、御幸村が誕生した。

さらに戦後の区制施行（五区）で住吉村の一部を合わせ、御幸村の幸（さいわい）をとって幸区が、成立した。

私と多摩川



八王子・日野カワセミ会
会長 粕谷 和夫

八王子市、日野市には多摩川の支流、浅川が両市の中心部分を貫流している。その浅川の野鳥を観察するグループ（八王子・日野カワセミ会）が1985年に発足して30年経過した。

本会は、主として浅川流域の野鳥の観察を通じて自然に接して楽しむこと及びそのために浅川流域の野鳥が安心して住める環境を作ることに協力することを目的として活動している。

活動の内容は探鳥会、調査研究、小学校や他団体に対する野鳥観察支援、野鳥保護、勉強会、他の自然保護団体との連携など広範にわたっている。

中でも調査研究の活動は最も重視しているもので、その内容は浅川や高尾山を中心に20コースを設定して毎月1回、野鳥定期カウントを行っている。

さらに冬鳥一斉調査、カルガモ繁殖調査、イワツバメ繁殖調査、オオルリ他夏鳥生息数調査、片倉城跡公園巣箱利用状況調査、我が家の庭に来た野鳥調査、秋のサシバ渡り調査、ツバメ集団ねぐら調査、ムクドリ・スズメ・ハクセイセキレイの集団ねぐら調査、ヒバリ生息調査、緑地の保全地域における野鳥の生息調査、内陸のイソヒヨドリ繁殖調査など多種の調査に取り組んでいる。

これ等の調査研究活動はどこから依頼されたものではなく、誰から依頼されたものでもなく自主的に、かつボランティアで実施している。

野鳥の専門家として野鳥の学問的な研究を主眼に取り組んでいる訳ではないので、観察（調査）結果に疑問の残る部分が含まれることは承知の上でこのような活動を行っている。

「先ずカウントして、記録し、公表してデータを次の世代に残そう」が、本会の活動のモットーである。

このような活動は少数の専門家や研究者ではなし得ないことで、多くのアマチュアの活動の集積によってなし得るのではないかと考えている。

調査結果はデータの紛失を防ぐため、またデータの改ざんを防ぐために会員が共有することを基本としている。そのために「八王子・日野の野鳥の記録」としてDVDに収めたデータ集を年報形式で作成し、配布している。また広く社会での活用の促進を目的に「会報かわせみ」を年2回発行（2016年で通巻57号）、10毎に「数え上げた浅川流域の野鳥」を作成している。

2016年には、発足30年を記念して「数え上げた浅川流域の野鳥」と同時に「八王子市・日野市鳥類目録」を作成して間もなく発刊の予定である。鳥類目録とは、その地域で確認された全ての鳥を網羅的に掲載した、いわば「鳥のカタログ」である。野鳥は地球規模で行動するので、両書がローカルな範囲の野鳥の観察（調査）記録でも、地球規模での自然環境の動向を見守る資料の一部としても貢献できるのではないかと考えている。

数え上げた 浅川流域の野鳥Ⅲ



2016年12月
八王子・日野カワセミ会

八王子市・日野市 鳥類目録



2016年12月
八王子・日野カワセミ会

インフォメ 多摩川

多摩川流域の各種団体等の12月から3月頃まで行われる環境活動に関する主な行事・イベント情報を紹介いたします。

☆ **美しい多摩川フォーラム**

- 1. 第9回多摩川子ども環境シンポジウムを開催
(12月10日14時～16時半：フォレスト・イン昭和館／昭島市)

問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内）

担当：及川／土方／黒米

TEL：0428 - 24 - 5632 FAX：0428 - 24 - 4650

E-mail：forum@tama-river.jp URL：http://tama-river.jp

☆ **むさしの化石塾**

野外調査 地質調査日程

2016年12月18日 日曜日 野外調査 時間 調査地未定

2017年1月22日 日曜日 野外調査 時間 調査地未定

2017年2月26日 日曜日 野外調査 時間 調査地未定

2017年3月26日 日曜日 野外調査 時間 調査地未定

お問合せ先 **むさしの化石塾** geo@extra.ocn.ne.jp

問い合わせ先

GeoWonder 企画 **むさしの化石塾**

〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3 - 20 - 7 MKJ事務所

Musashino School of Paleontology

むさしの化石館 042 - 567 - 1095 (FAX)

むさしの化石塾 代表 **福嶋 徹** 090 - 1769 - 8020

Mail: geo@extra.ocn.ne.jp

URL : http://fossils.blog.ocn.ne.jp/

☆ 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

早春のバードウォッチング ~多摩川・兵庫島公園周辺

2月25日(土) 午前9時30分~11時30分 要申込

世田谷トラストまちづくりビジターセンター ~世田谷区成城4-29-1(野川沿い)

開館時間: 午前9時~午後5時 / 休館日: 月・火曜および年末年始(12/29-1/3)

* 「身近な自然と触れ合うミニイベント」 要申込 / TEL. 03-3789-6111

1月21日(土) 「はじめての 草花レジンアクセサリーづくり」 午後1時30分~3時

2月18日(土) 「木の実のおひなさまづくり」 午後1時30分~3時

3月18日(土) 「デジカメでネイチャーPHOTO&木のPHOTOスタンド作り」 午後1時~3時30分

* 「みどりの上映会」毎週土曜日 午前10時~正午、午後1時半~3時半 随時・申込不要

【申込・問い合わせ先】

(一財)世田谷トラストまちづくり トラストまちづくり課

TEL03 - 6407 - 3311 FAX03 - 6407 - 3319

財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

☆ 川崎市域水辺の楽校

かわさき水辺の楽校	とどろき水辺の楽校	だいし水辺の楽校
12月17日 のびのびそだてたまっこ 参加(生田小)	12月23日 野鳥観察 (とどろきフィールド多摩川)	12月17日 クズ編み教室
1月9日 お正月遊び・凧づくり・ 凧揚げ・お汁粉	1月15日 昔遊び・凧づくり・ お雑煮大会	1月21日 凧づくり教室
2月26日 3校合同川崎市域水辺の楽校発表会 会場: 大師河原干潟館(10:00~15:00) ~多摩川学習の取り組み~ オープニング ・マリンバ演奏(奥平 哲也~自然を奏でる~) ・基調講演(上丸子小学校校長 岩間 章先生) ・発表校 ・川崎市域水辺の楽校 ・川崎市内小中学校及び大田区・府中市立小学校等		

国土交通省河川協力団体 とどろき水辺の楽校

(運営) NPO法人 とどろき水辺

理事: 事務局 鈴木 眞智子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町3丁目64

電話・FAX 044-201-1493 携帯: 090-5814-9604

Eメール: machiko@todoroki.org info@todoroki.orgHP: <http://www.todoroki.org/>

☆ 多摩川大学ふれあい移動水族館

12月2日	金	ふれあい移動水族館 調布市内保育園	10時～11時	参加申し込み制
12月3日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
12月4日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
12月6日	火	ふれあい移動水族館 葛飾区内保育園	10時～11時	参加申し込み制
12月10日	土	第8回多摩川環境子どもシンポジウム	14時～18時	昭島市フォレスト・イン昭和館 自由参加
12月11日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
12月17日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
12月18日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
12月19日	月	おさかなポスト清掃ボランティア募集		参加申し込み制
12月24日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
12月25日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
12月26日	月	ふれあい移動水族館 高津区子ども文化センター	14時～15時	参加申し込み制
12月29日	木	おさかなポスト年末親睦会 お餅つき おいしいもの一品持ち寄り		参加申し込み制
12月31日	土	多摩川カウントダウン ハッピーニューイヤー 川崎区殿町第2公園集合	23時30分～0時30分	参加申し込み制
1月7日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川 バードウォッチング	11時～12時30分	参加申し込み制
1月8日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
1月14日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
1月15日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
1月21日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
1月22日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
1月26日	木	中学生職業体験 おさかなポスト学習会		参加申し込み制
1月27日	金	中学生職業体験 おさかなポスト学習会		参加申し込み制
1月28日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
1月29日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
2月4日	土	多摩川環境学習会 立川科学教育センター	10時～	参加申し込み制
2月5日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
2月11日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
2月12日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
2月15日	水	ふれあい移動水族館 足立区子どもの家		参加申し込み制
2月18日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
2月19日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
2月26日	日	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
2月27日	月	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
3月5日	日	3.11東日本大震災 追憶と鎮魂の多摩川灯籠流し	16時30分～	多摩区稲田堤の多摩川 自由参加 ボランティアさん募集
3月11日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
3月12日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
3月18日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
3月19日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制
3月25日	土	多摩川環境学習会 多摩区内の多摩川	11時～12時30分	参加申し込み制
3月26日	日	おさかなポスト学習会 多摩区稲田公園内魚の家おさかなポスト		参加申し込み制

詳細、お問い合わせ、参加申し込みは下記メールか電話にてご連絡ください。

mlc54407@nifty.com

電話 090 - 3209 - 1390

NPO法人おさかなポストの会 代表 山崎 充哲

ふれあい移動水族館

川崎市多摩区生田7-25-1 電話044 - 933 - 3220 携帯090 - 3209 - 1390

財団からのお知らせ — 助成研究募集のご案内 —

多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究・活動助成の募集

公益財団法人とうきゅう環境財団（理事長 鈴木克久）は、1975年（昭和50年）より、多摩川およびその流域の環境浄化の促進や自然環境の保全などに必要な調査や試験研究を毎年公募してきました。その結果、これ迄に1,209件（新規・継続—学術研究755件、一般研究454件、14億26百万円）の調査・試験研究のお手伝いをさせていただきました。

2017年（平成29年）4月からの助成についても、従来と同様、意欲的な調査や試験研究を募集致します。

1. 応募資格者

下記研究対象テーマに掲げた調査や試験研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 助成研究対象テーマ

産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究

排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究

多摩川およびその流域における水の利用に関する調査および試験研究

シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川及びその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与するもの。

3. 応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入、捺印の上、財団宛ご提出下さい。

「募集要項」「申請書」はホームページ上からダウンロードして下さい。

<http://www.tokyuenv.or.jp/invite>

4. 助成の決定

2017年（平成29年）3月に開催予定の当財団選考委員会で選考のうえ、理事会に諮って最終的に決定致します。

5. 応募締切日 2017年（平成29年）1月13日（金）消印有効

6. 応募にあたっての注意事項

ご応募にあたっては当財団の定める「調査・試験研究助成に関する調査・試験研究の選定基準、助成の方法、調査・試験研究の実施方法、助成金の支払い方法ならびに調査・試験研究者の個人情報保護の方法に関する規程」を必ずお読み下さい。

過年度に不採用となった調査や研究の再応募は受付けておりませんので、同一の調査・試験研究課題で再応募される場合は、前回のものと調査や試験研究の内容のちがいがよく判るよう工夫して、申請書をご作成下さい。

（次ページへ続く）

7. 助成研究の種別と諸条件

研究の種別	学術研究	一般研究
研究の区別	環境問題改善のための調査や試験研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。 (財団のホームページで過去の研究事例をご参照下さい。)	環境問題改善のための調査や試験研究で、一般の市民が、特別な学識経験を必要とせず取り組めるもの。
1件当たりの助成金総額の上限額	400万円	100万円
単年度の助成金上限額	200万円	100万円
研究期間	最長2ヶ年	最長2ヶ年
助成対象費目 (1) 器具備品費 (2) 消耗品費 (3) 旅費 (4) 謝金 (5) その他	直接研究に使用する器具備品で一個、又は一式10万円以上の固定資産。 調査や試験研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 調査や試験研究のための交通費、宿泊費等。 調査や試験研究のために臨時に雇った人の謝金等。 器機・設備などの賃借料、通信費、その他。	
尚、一般研究については、従来からの調査・試験研究に加えて、シンポジウム、音楽会あるいは出版等による環境啓発活動や、歴史的な遺産あるいは社会システムの維持保全・回復運動等、多摩川およびその流域における環境保全や文化の創造に広く寄与すると思われるものも選考の対象といたしましたので、奮ってご応募下さい。		

▶ 当財団の概要

公益財団法人移行 2010年10月1日(設立1973年8月28日)

主務官庁 内閣府

基本財産 978百万円

財源 基本財産等の運用収入並びに寄付金

事業内容 研究助成事業

1 研究助成 総助成件数 1,209件
(学術755件、一般454件)
総助成金額 1,426百万円

2 学習支援 副読本制作配布 290千部

印刷刊行物 研究助成成果報告書学術編
研究助成成果報告書一般編
環境副読本(毎年)7,000部

[常務理事]
[監事]
[評議員]

[選考委員]
(は委員長)

- 中村 良夫 東京工業大学 名誉教授
- 三木 千壽 東京都市大学 学長
- 涌井 史郎 東京都市大学 特別教授
- 小野木 喜博 当財団 事務局長
- 長田 忠千代 東京急行電鉄株式会社 常勤監査役
- 上野 孝 横浜商工会議所 会頭
- 海老原 大樹 東京都市大学 名誉教授
- 大井 明 公益財団法人とうきゅう留学生奨学財団 理事長
- 越村 敏昭 東京急行電鉄株式会社 取締役相談役
- 外川 満夫 株式会社東芝 営業統括部 総合営業部長
- 高橋 裕 東京大学 名誉教授 / 選考委員長
- 鳥井 信吾 サントリーホールディングス株式会社 取締役副会長
- 光富 眞哉 株式会社日立製作所 鉄道ビジネスユニット マネージングダイレクタ
- 山田 長満 川崎商工会議所 会頭
- 渡邊 功 東京急行電鉄株式会社 取締役専務執行役員
- 高橋 裕 東京大学 名誉教授
- 奥山 文弥 東京海洋大学 客員教授
- 小堀 洋美 東京都市大学 特別教授
- 小宮 輝之 上野動物園 元園長
- 齋藤 潮 東京工業大学大学院 教授
- 新藤 静夫 千葉大学 名誉教授
- 鈴木 信夫 昭和女子大学客員教授 千葉大学名誉教授
- 田畑 貞寿 千葉大学 名誉教授
- 土屋 十囀 前橋工科大学 名誉教授
- 寺西 俊一 帝京大学経済学部教授 一橋大学名誉教授

▶ 役員・評議員

(敬称略50音順)

- [理事長] 鈴木 克久 東京急行電鉄株式会社 顧問
- [理事] 池島 政廣 亜細亜大学経営学部経営学科教授
- 石渡 恒夫 京浜急行電鉄株式会社 取締役会長
- 大須賀 頼彦 小田急電鉄株式会社 取締役会長
- 加藤 奂 京王電鉄株式会社 取締役相談役
- 金指 潔 東急不動産ホールディングス株式会社 代表取締役会長
- 小長 啓一 東京急行電鉄株式会社 取締役
- 小沼 通二 東京都市大学 名誉教授

発行日 平成28年12月1日

編集兼発行 公益財団法人とうきゅう環境財団

〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14

(渋谷地下鉄ビル5F)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

ホームページ <http://www.tokyuenv.or.jp/>

